

エリック・デイビスの覚書についての解説

この覚書の意味すること

米国防情報局の副局長（当時）という高官が話し、著名な宇宙物理学者が書き留めた覚書が本物なら、ペンタゴン内部に潜む軍産複合組織 MJ12-USAPs が実在し、米国の法律に従わず、国家予算から資金を流用して墜落・回収 UFO の研究、人造 UFO 作成などに従事していることの明確な証拠となる。

ロズウェル事件を本気にしない多くの人たちがこの証拠によってこの真実に気付いてくれることを望みたい。

この終末思想に染まった USAPs は数年後にエイリアンの地球襲来というフェイク・プロパガンダをしつつ、恐ろしいことを仕出かす恐れがある。

覚書が世に出た経緯

1. 覚書は宇宙飛行士エドガー・ミッチェル博士が持っていた。

宇宙飛行士エドガー・ミッチェルの死（2016年2月4日）後、彼の私物からこの覚書が見つかり、UFO関係のジャーナリストたちの手で公開された。

かなり事情を知っていると思われるゲイリー・ノーラン教授はロス・カスバートとのインタビュー（後述）でこう発言していた。

ノーラン：これは結局リークですね。

でも興味深いのはこの文書がどのように見つかったかということです。それはミッチェルが亡くなったあと彼の私物から見つかったのです。

ですから、誰かがわざとそれを公にしたということではないのです。

インタビュアー：アポロ14号の宇宙飛行士ですね。

ノーラン：そうです。エリック・デイビスは覚書を書いていた。

エドガーがそれをどうやって手に入れたかは知りません。

とにかくミッチェル博士はそれを見つけた。

でも誰も積極的に覚書を暴露しようとしたわけでない。

これはエドガーの私物を入手したジャーナリストたちの仕業です。

彼らが覚書の公開を決めたということです。

(ミッチェルがウィルソン提督から覚書を直接もらった可能性もある：「この覚書は本物」の2を参照のこと)

2. その覚書を UFO 関係のジャーナリストたちが公開した。

この覚書のうち2ページ分は2006年の時点でUFO研究者リチャード・ドーランが目にしており、オーストラリア人のジェームズ・リグニーがある情報源から全文を入手し、2018年10月にグラン・キャメロンにプリントして渡していた。

6カ月後この覚書は匿名での投稿が可能な掲示板redditにアップされた。それに最初に気付いたジャーナリストのギュリアーノ・マリニコビックが2019年4月19日にFacebookのメッセージで米国のUFO研究者たちに伝達。ギュリアーノの友人の研究者ジョー・マギアもこの会談記録を見た。

こうして覚書は公になっていった。

(ジョー・マギア氏のウェブサイトを参照)

[The Wilson/Davis Documents – My Twenty-Three Year Journey – Part 1 » Joe Murgia \(ufojoe.net\)](http://ufojoe.net)

主要人物のプロフィール

1. ウィルソン提督 [Thomas R. Wilson](#) (1946~)

米国防情報局長を1999年7月から2002年7月まで務めた。

1997年4月の当時は副局長だった。グリアが開いた会合のあとペンタゴンの公文書を調べて通常のSAP(特別アクセスプログラム)に属さない隠密グループ

(USAPs)の存在を見つける。このグループを調査しようとするが拒否される。特別アクセスプログラムの審査会にこの件を訴えたら、逆に降格するぞと恫喝される。

この隠密グループの仲間がこの審査会をはじめペンタゴン内にかなりいたことをウィルソンは知らなかった。

墜落回収 ET 宇宙船の研究をしている宇宙物理学者エリック・デイビスにその経緯を話すよう周囲から勧められて会う。

2. エリック・デイビス博士 [Eric W. Davis](#)

[アーステック・インターナショナル](#)並びに[オースチン先進科学研究所](#)の主席サイエンス担当。星間飛行のための先進的な推進物理学、星間飛行サイエンス、ビームエネルギーによる推進、宇宙空間で利用する先進的核パワー並びに推進力、指向性エネルギー兵器、未来の形態変換テクノロジー、一般相対性原理、場の量子論、量子重力理論、実験量子光学、地球外探索異星考古学などの専門的研究に従事。

宇宙のワームホールを使って星間飛行をする理論なども研究。

(以上 [Everland](#) の人物解説による)

要するにマッドサイエンティストに近い天才科学者。

NASA のコンサルタントもしていた。

[Dr. Eric W. Davis, of NASA's Breakthrough Propulsion Project, discussed UFOs during lecture : r/space \(reddit.com\)](#)

墜落回収 UFO の研究にはうってつけの人物と思われる。

3. [スティーブン・グリア](#) Steven M. Greer (1955~)

1990 年に地球外知性研究センター (CSETI) を設立。

TM 瞑想法をマスターし、遠隔透視や幽体離脱が可能。

ET コンタクト法 CE-5 で ET とのコンタクトを試みる一方、隠蔽された UFO 情報を開示する運動「ディスクロージャー」を実施。

2001 年 5 月と 2023 年 6 月にワシントン DC の記者クラブで軍・政府関係者、企業、情報機関の人物らに UFO や ET に関する目撃証言をさせた。

グリアは 1992 年ごろからペンタゴン内に潜む USAPs の関係者と対峙し、彼らと直接渡り合ってきた中で、グリアのために極秘の活動内容を証言しようという者も出てきた。

1997 年 4 月にグリアがペンタゴンで開いた会合には宇宙飛行士のエドガー・ミッチェル、海軍司令官ウィリアム・ミラーの他、その種の証言者たちが出席していた。

「1997 年 4 月のこの説明会の朝、集合したトップ・シークレットの証人全員との非公開の会合が催された。宇宙飛行士エド・ミッチェルもそこにいた」(『UFO テ

テクノロジー 隠蔽工作』249 ページ、前田樹子訳)

「1997 年に議会で状況説明を行った翌日、今度は統合参謀本部の情報部長トム・ウィルソン海軍大将に状況説明するように依頼された。この重要な会合に先立ち、私は彼の部下たちに書類を送った。ウィルソンの補佐官が私に語ったところによると、実は大将はこれらの暗号名や暗号プロジェクト名と番号が役立つことを発見し、いくつかのチャンネルを通して問い合わせたところ、ペンタゴン内部にある細胞の中の活動員を幾人か見つけたのだという。

このグループを確認したウィルソン大将は、次にこの極秘細胞の中のコネに〈このプロジェクトについて知りたい〉と告げた。ところが相手はこう言った。〈サー、知る必要はありません。私たちがそれについてあなたに話すことはできません〉。

ペンタゴンの J-2、つまり統合参謀本部の情報部長である海軍大将が「あなたには教えない」と言われたのである。そんなことが想像できるだろうか？ 大将はショックを受け、怒った。

私は海軍大将との会見に、私の証人のひとりと、シャリ、私たちの軍事顧問、それにアポロ宇宙飛行士エドガー・ミッチェルの 4 人を伴った。この会見は独断場の状況説明に終始した。説明が進行するにつれ、大将は他の約束を取り消しはじめた。彼はこの情報に興味津々だった。(中略)

状況説明中、海軍大将と私は、この悪徳集団 — 彼を天井桟敷に押しやったーの米国への危険性、法の支配と国家安全保障への危険性について論議した。(中略)

また私は、この無法悪徳グループが彼の B2 ステルス爆撃機を包囲できる模造エイリアン船のテクノロジーを所有していることを海軍大将に話した。彼はしばらく考えてからこう言った。〈この問題について知っていて、その話を記録させてくれる人たちが君が確保できるなら、少なくとも私に関するかぎり、その記録を携えてマスコミへ行く許可を君に与える。このグループは違法である！〉(同書 260～261 ページ)

この会合のことは「エリック・デイビスの覚書」訳の 2 ページに出てくる。

覚書によれば、ウィルソン提督、彼の上司のパット・ヒューズ大将も同席していた。

この会合で UFO 墜落回収や ET の死体が語られたことがボストン・グローブ紙で記事になった。

覚書にあるウィルソン提督の話では、ミラーがグローブ紙の記者キーンに会合のことを話したということになっている。

ウィルソン提督が同席していたことも表沙汰になり、彼は怒り狂った。

4. ウィル・ミラー [William\(Will\) J.A. Miller](#)

米海軍司令官。1994年に退役。1992年からグリアのCSETIの軍事アドバイザーをしていた。

ベトナム戦争中1970年にトンキン湾でUFOを目撃している。直径4フィートの光が水中にもぐり猛烈なスピードで彼の乗る艦船の下を通過したという。この物体はソナーにもレーダーにも感知されなかった。

CSETIでの彼の役割はUFOに関心を持ちUFO情報開示に賛同する行政関係者や軍関係者にブリーフィングやアドバイスをすることだった。

[The Wilson/Davis Documents – My Twenty-Three Year Journey – Part 1 » Joe Murgia \(ufojoe.net\)](#)

5. [エドガー・ミッチェル博士](#) Edgar Dean Mitchell (1930-2016)

アポロ14号乗員として月面を歩いた(1972年2月)。スピリチュアルな感覚を得て地球に帰還。ロズウェルのUFO墜落事件や異星人の死体の存在を肯定する発言を繰り返し、世間を驚かせた。

[UFOの存在、信じている – 元米宇宙飛行士ミッチェル氏 - Bloomberg](#)

2008年7月23日にミッチェルはイギリスの音楽専門ラジオKerrang Radioのニック・マーグリーソンによるインタビューで、異星人の地球訪問を肯定して驚かせた。

木村太郎氏は国際通信欄(東京新聞2008年8月2日夕刊)で、「元宇宙飛行士の“告白”」というタイトルの記事でこのことについて書いている：

ミッチェル氏は元宇宙飛行士であるだけでなく、マサチューセッツ工科大学で博士号を修得した科学者でもあり、マーグリーソン氏がうろたえたのにも無理はなかった。「ワーオ！これは大変な話だ、いやショックだ…」

マーグリーソン氏はまだ動揺していて、インタビューはこの後、めちゃめちゃになってしまったが、このミッチェル氏の発言がニュースで伝わると、米国のドキュメンタリー・テレビの「ディスカバリー・チャンネル」がやはり電話でイン

タビューを行い、ミッチェル氏の意図が明らかになった。

インターネット上に公開されたインタビューの記録によれば、ミッチェル氏は月から帰還して退役した後、ニューメキシコ州のロズウェルという町に住んでいた。この町では一九四七年に何か墜落したが、それが宇宙船で宇宙人の死体も回収されたことを軍が隠蔽していると長年憶測を呼んでいた。

ロズウェルでミッチェル氏はその宇宙船について知っている人物たちから情報を得、そのことを国防総省に報告したが、その際にそれが真実であると確認を得たという。

しかし、軍はその事実を覆い隠し続けるのだが、それについてミッチェル氏は次のように言っている。

「当時は戦後間もなくで、空軍も CIA も誕生したばかりでした。しかも冷戦が始まり、彼らは何をしてよいか分からない中で事件は起きたのです。そこで米政府は MAJESTIC 1 2 と呼ばれる特別委員会を設け、すべてを極秘扱いにして六十年間隠してきたのです」

以上引用

元になったインタビューは YouTube で見ることができます。

Edgar Mitchell UFO interview on Kerrang Radio 23 July 2008

<http://uk.youtube.com/watch?v=RhNdxdveK7c>

この覚書は本物

証言 1. デイビスの友人でノーベル賞候補の免疫学者ゲイリー・ノーラン教授 Garry Nolan (スタンフォード大) が UFO 関連のジャーナリスト、ロス・カスバートによるインタビューで覚書は本物だと断言した。

Professor Garry Nolan & Ross Coulthart: Full Interview UFO UAP News

<https://www.youtube.com/watch?v=XR0JtbuLhPo>

ちなみにノーラン博士はグリアの記録映画「シリウス」で小人型異星人ミイラ・アタを調査した科学者。ミイラの正体を隠蔽した疑いがある。

higusumi.world.coocan.jp/japanisch/ufo/ata.htm

ノーラン教授は USAPs や CIA と通じている科学者団体 To the Stars Academy に

属している。

<https://www.youtube.com/watch?v=XR0JtbuLhPo> (14:39~)

所属科学者たちが行っているとみられる空中浮揚物質の実験が米陸軍内で行われているのは本当かという質問にノーランはその質問に答えることは許されていないという。暗に肯定していると言っている。

<https://www.youtube.com/watch?v=XR0JtbuLhPo> (15:40~)

ノーラン教授は USAPs が手に入れている ET 関連の超科学に知的好奇心から深入りしている科学者のように見える。

同じく天才宇宙物理学者として ET 関連のテクノロジーを研究しているデイビスとは知己の仲だ。

RC：あなたはウィルソン提督文書と呼ばれる文書をご存じですか？

ノーラン：はい。

RC：文書は本物だと思いますか？

ノーラン：はい。

RC：わお（驚く）。

ノーラン：私はエリック・デイビスを知っていますし、エリックが嘘をつくことなど全く不可能な人間であることも知っています。

RC：当時国防情報局次期局長であるウィルソン提督が著名な科学者エリック・デイビス博士と会話した記録らしいということがこの文書の重要な点です。ウィルソン提督は極秘の UFO リバースエンジニアリング計画が米国政府内で進行しており、回収された UFO が隠されているということを発見して伝えています。そしてその機体はある民間の宇宙航空会社に隠されていたという。

ゲイリー、わたしのジャーナリスト魂が言うのですが、アメリカ人は秘密を守れないと思います。この国ではどんなことでもリークされてしまう。

ノーラン：で、この件がその一例ですな。

RC：OK、あなたはそう考えるのですね。

ノーラン：はい。

RC：これは結局リークです。

ノーラン：これは結局リークですね。

でも興味深いのはこの文書がどのように見つかったかということです。それはミッチェルが亡くなったあと彼の私物から見つかったのです。

ですから、誰かがわざとそれを公にしたということではないのです。

RC:アポロ14号の宇宙飛行士ですね。

ノーラン：そうです。エリック・デイビスは覚書を書いていた。

エドガーがそれをどうやって手に入れたかは知りません。

とにかくミッチェル博士はそれを見つけた。

でも誰も積極的に覚書を暴露しようとしたわけでない。

これはエドガーの私物を入手したジャーナリストたちの仕業です。

彼らが覚書の公開を決めたということです。

<https://www.youtube.com/watch?v=XR0JtbuLhPo> (54:27~)

証言2. 宇宙飛行士ミッチェルがペンタゴンで会談があったことを認めた。

ペンタゴンで行われた1997年の会談から10年後の2007年6月25日に宇宙飛行士エドガー・ミッチェルがこの会談のことをジュリアーノ・マリニコビッチとのインタビューで話している。

「私は統合参謀本部の諜報特別委員会の会議に招かれてペンタゴンを訪れた。そこで同じような体験をたくさんしているもう一人の海軍将校と話を交わした。この副提督は私たちにこう語った：

「そのことについてわしは知らないが、調べてみよう」

彼は数週間後に電話してきて、そのプロジェクトのために資金を流す闇の予算の元締めを見つけたと言った。これは本当のことなので引き続き調査する必要がある。明らかにするべきだと。これは実際、彼の職務だった。

彼はそう言ったのだ。それからすこしたったころ我々は彼から何度か電話をもらい、レポートも1つもらった（ジョー・マギアの注：ミッチェルはデイビスの覚書のことを言っているように思える）。

その後だいぶたってから彼は隠蔽に関わった連中や、事情を知る連中を見つけたと電話してきた。連中に「提督申し訳ありませんが、あなたはここのことを知らなくていいのです。お引き取り下さい」と言われたと。

証言3. 流出した覚書に対するデイビスの反応

ジョー・マギアは覚書を手に入れた 2019 年 4 月 19 日に個人的に交流があったデイビス本人にダメ元でこの覚書についてメッセージャーを通じて問い合わせた。

「この覚書についてコメントは出来ないだろうと思う。ノーコメントでも OK だ。私はこの覚書について書くことにしているけど。」

デイビスの返信は「ノーコメント」だった。

黙秘するということは、本物であることを間接的に白状しているようなものである。

証言4. グリアの UFO テクノロジーの記述へのウィルソン提督の反応

グリアの『UFO テクノロジー 隠蔽工作』（原書 Hidden Truth Forbidden Knowledge 2006 年刊）が刊行後間もなくの 2006 年 10 月、UFO 研究者リチャード・ドーランがウィルソンに電話し、友好的な会話の中で、ウィルソン提督が 1997 年にグリアやミッチェルを交えて UFO に関する会合に出席したかと尋ねると、最初彼は記憶があいまいだと答えた。しかし尊敬すべき宇宙飛行士ミッチェルが会合は実際に行われたと言っていますよとドーランがいうと、ウィルソンはとたんに口調を変え、ぼんやり思い出してきたという。ドーランがグリアの本に会議のことが載っていると言うと、ウィルソンはその箇所を読み上げてくれという。ドーランは従った。

読み上げるとウィルソン提督の声の調子が急変した。それまではリラックスして低音で話していたのが急に高い声になった。苛立っているというか、怒っているようだった。

ウィルソンはその通り、わしはグリアとミッチェルに会ったと言った。会ったのはなぜミッチェルのように偉業を遂げた人物がそんなことに関わるのか、知りたくなかったからだという。グリアが会合に関して書いたその他のこ

とはすべてたわごとだと言い放った。これから会議に出なくてはいけないので話はこれでお仕舞にすると行ってウィルソンは電話を切った。

(以上証言 2～4 はジョー・マギア氏のウェブサイト参照)

[The Wilson/Davis Documents – My Twenty-Three Year Journey – Part 1 »](#)
[Joe Murgia \(ufojoe.net\)](#))

覚書の中でウィルソンはデイビスに対しこう言っていた：

「 —もし君がわしの信頼を裏切ったら、君と今後会うことは拒否するだろう。
— シャベったことをすべてなかったことにする。」

覚書の流出はデイビスの意図したことではなかったろうが、結果的に極秘のはずだった会談の内容が公けになってしまったことは、ウィルソンからしたら信頼を裏切られたことになる。

その結果、ウィルソンは「シャベったことはすべてなかったことにする」を実践したと言える。

Majestic 12 (MJ-12) について

1947年7月2日の夕方にロズウェルで UFO 墜落 (実際は撃墜) 事件が起こり、異星文明のテクノロジーが詰まった宇宙船や異星人の死体が軍によって回収された。

1947年9月24日トルーマン米大統領が墜落 UFO に関する秘密委員会を設置し、その委員会が異星のテクノロジーを研究する MJ-12 プロジェクト作戦を運営。

この作戦は最高機密であり、作戦を遂行する 12 人の人物以外でアクセスライセンスをもつ者はごく限られていた。

次期大統領になる直前のアイゼンハワー宛にこの MJ-12 の内容を伝える 1952年11月18日付の極秘文書 (MJ-12 文書) が UFO 研究者にリークされて存在が公けになった。

この MJ-12 はペンタゴンの中でも隠蔽され、軍産複合体として次第に大統領もアクセスできない非合法の強大な組織となっていった。

グリアはこの組織を非認可の特別アクセスプログラム (USAPs) と呼んで、その

人類を危険に晒しかねない非合法の活動を暴き、阻止しようと奮闘している。

(以上、『MJ-12 の秘密』(矢追純一著、ワニの本、1989 年刊) の一部と、『UFO テクノロジー 隠蔽工作』(スティーブン・グリア著、前田樹子訳、めるまー、2008 年刊、原書は 2006 年) を参照。MJ-12 に関してはこの訳本の 135, 250 ページに記載されている。)

補足 1

ノーランは米政府が墜落回収 UFO を隠蔽していることをインタビューではっきり認めている。

To the Stars Academy にはその墜落 UFO を調査研究していると強く疑われる科学者たちがいる。同じく To the Stars Academy に所属しているノーランが政府の隠蔽を認めているわけで、この証言の意味は大きいと言わざるを得ない。

RC: あなたは政府が UFO 回収に関わってきたと言いますが、政府がそれを隠蔽してきたと思いますか？

ノーラン: もちろん、そう思います。

RC: すごい！

ノーラン: (動揺する) わ、わ、私はそれが事実だと知っています。ただそれを知っているというだけです。(訳注: 自らは関わってはいないという弁解か)

RC: なぜですか？なぜあなたはそれを知っているのですか？

ノーラン: なぜなら私は仲間から抜け出してその事実を内部告発しようとしている人たちと話したからです。

RC: わお！それであなたはその内容を知っているというわけですか。

ノーラン: その通りです。

RC: 隠蔽はあったと。

ノーラン: そうです。意図的な隠蔽がずっと続いていました。この真相を隠蔽し続けてきた連中の陰謀と策謀を情報透明化の対象とするのは実際良いことで

す。彼らに光が当てられました。先週国防省が公表したことに注目してほしい。彼らは UAP 現象を研究する部署を作ると公表しました。予算もつけて。彼らは 1947 年を再検討すると言ったのです。

RC: それはびっくりです。ロズウェル事件の年ですね。

ノーラン: そうです。1947 年です。情報操作のために行われたオペレーションのすべてをリストアップしたいくらいです。操作できたということが凄い。秘密保持契約、口外しないという同意書の山が築かれた。そのリストアップをしたいくらいだ。隠蔽計画の周囲にはこの秘密保持の同意の山がある。なぜそれが興味深いか? 興味深いのは秘密保持契約そのものでない。契約にサインした人たちが興味深い。なぜならそれによって個人を特定でき、彼らに関わった隠蔽計画の証拠が書面の形で残るからです。

<https://www.youtube.com/watch?v=XR0JtbuLhPo> (52:56~)

この証言動画の背景

このノーランのインタビューは 2022 年 6 月に録画され、その動画は 2023 年 12 月に 7 News.com の Youtube にアップされた。

ノーランは「先週国防省が公表したことに注目してほしい。彼らは UAP 現象を研究する部署を作ると公表しました。予算もつけて。」と言っている。

米政府やペンタゴンは 2017 年ぐらいから米海軍などが撮影したとする UAP 動画を公開し始め、UAP に関する情報公開の姿勢をアピールし始めていた（その実このアピールは UAP 現象に安全保障を脅かす侵略のニュアンスを付加するための印象操作である疑いがある）。

2021 年 6 月には UFO 目撃情報をリリースしている。

[Pentagon task force's UFO report released — many cases remain unexplained - CBS News](#)

2022 年 5 月 17 日に 50 年ぶりに UFO、UAP に関する公聴会が米国議会で開かれている。

[IG137051 \(congress.gov\)](#)

[Pentagon officials testify at first public UFO hearing in more than 50 years - CBS News](#)

その後ペンタゴンが UFO、UAP を調査する部署を設置した。

[Pentagon establishes office to track UFOs in space | Space](#)

To the Stars Academy からのリークもあって設置したという。ただこの「リーク」はペンタゴン内の謀略と連携していることが疑われる。

[The Pentagon Established An Office To Track UFOs. What Could We Learn? : 1A : NPR](#)

2022 年 6 月 9 日には NASA でも UAP に関する情報を分析するチームが発足している。

[UAP - NASA Science](#)

この一連の UFO/UAP 情報公開の流れを受けて、ノーランはインタビューの中で政府の UFO 情報隠蔽の事実を証言したわけだ。

なお、2023 年 7 月の UFO 公聴会で政府が墜落・回収 UFO などの情報を隠蔽しているという内部告発があったあと、米政府は 8 月末にさらに情報の透明性を打ち出す構えをみせた。

[UFO 情報サイト開設 米政府、写真や動画公開 | 共同通信 \(nordot.app\)](#)

2023 年 9 月ごろは NASA も積極的に UAP 情報を集める姿勢を見せていた。

[NASA が UFO 責任者設置へ 研究会「高品質のデータ必要」\(共同通信\) - Yahoo!ニュース](#)

しかし 2024 年に入ってペンタゴン内(USAPs の連中か)の反発によって公開が縮小されることになった(2024 年 1 月 9 日のニュース)。

[アメリカ政府はなぜ一転して UFO を秘密に！？ UFO の記録公開の縮小法案を可決 \(Pen Online\) - Yahoo!ニュース](#)

ノーランはこの流れまでは予測していなかったに違いない。

結論

ノーランは 2022 年 6 月当時、UFO・UAP 情報を透明化する姿勢を見せる政府やペンタゴンの動きを本物と信じていたふしがある。そして UFO 情報隠蔽の背後にいる USAPs の正体を知らず、ペンタゴンが宣言した UFO 情報透明化によって情報隠蔽も正せると単純に思い込んでいたと思われる。

USAPs の正体を知らないからこそ、その息がかかった To the Stars Academy にも、単純に UFO に関わる研究をしたい一心で加わっていたのだろう。

いずれにせよインサイダー情報として UFO 情報隠蔽の事実を暴露することは相当なリスクを伴う。

この証言の重みはしっかり受け止めるべきだろう。

なお、ノーランはロズウェル事件の目撃者たちが黙秘の誓約を交わしているようなことを言っているが、実際そのケースもあるようだ（補足 2 で紹介する『ロズウェルに UFO が墜落した』、44 ページ）。しかし中には命の危険をほのめかす脅迫を受けているケースもある。

「政府は UFO 騒ぎを鎮めるべく、すばやく行動したのである。愛国心への訴え、“国家の安全保障”という主張、賄賂、長期拘留という脅し、命の危険さえほのめかすあからさまな汚行など、さまざまな手段を用いて UFO 話を押さえ込もうとした。（中略）

さまざまな地点で回収にかかわった下士官兵たちは、グループごとにデブリーフィング（秘密厳守の宣誓）をした。口外しないように長期の禁固刑の可能性ももちだされ、遺体を目撃した者には 1 万ドル以上の口止め料が支払われたという話すらある。」（同書 254 ページ）

なお、ノーランがグリアの期待に背いてアタの遺伝子分析の答えを粉飾した疑いに関して言うと、それは CIA からの指示に従った行為だろうが、ET のミイラを独占的に研究したい本人の利己的な気持ちも加わっていたのではないかと推察される。

補足 2

会談内で言及された UFO 事件や人物

1. ロズウェル UFO 墜落事件 Roswell -craft/bodies/autopsies

以下の本は秀逸：関係者の死ぬ間際の遺言的証言も含む。

『ロズウェルに UFO が墜落した』（ドナルド・シュミット、トマス・キャリー著、並木伸一郎訳、学研、2010）

“Witness to Roswell” by Thomas J. Carey and Donald R. Schmidt 2007

改訂版がミッチェルの前書き付きで 2009 年に出版されている：

[Amazon.com: Witness to Roswell: Unmasking the Government's Biggest Cover-up \(Revised and Expanded Edition\): 9781601630667: Thomas J. Carey, Donald R. Schmitt, George Noory, Edgar Mitchell: Books](#)

目撃者の秘密保持に関しては訳本 44、254、255 ページを参照できる。

2. ホロマン空軍基地での UFO 着陸事件 Holloman Air Force Base Landing

1971 年 5 月に米国ニューメキシコ州のホロマン空軍基地で起こった UFO/ET 事件。3 機の UFO のうち 1 機が着陸したという。UFO に関する記録映画を作成しているジェームズ・フォックスによると、UFO 着陸から ET たちが機外に出るまでの様子を写したビデオが存在するという。

[Footage Of UFO Landing At Holloman AFB With Aliens Walking Out Exists, Producer Told James Fox - Journalnews](#)

この事件の経過をアニメで表現したサイト：

[Are you familiar with the story of the aliens that allegedly landed at... | TikTok](#)

3. サモラ UFO 事件 Zamora

1964 年 4 月 24 日、ニューメキシコ州のサコロで警察官サモラが卵型の UFO を目撃した事件。

[Lonnie Zamora incident - Wikipedia](#)

3. ベンウォーターズ空軍基地 UFO 事件

1980 年 12 月にイギリスのベンウォーターズ空軍基地で 3 日間にわたって起こった UFO 事件。

[\(859\) Left at East Gate - Alien and UFO Encounters from Another Dimension \(Part 5\) - YouTube](#)

この事件は“Left an East Gate”(Larry Warren&Peter Robbins)で扱われている。

4. コルソー事件 Phillip J. Corso

[“Dawn of a New Age”](#)

邦訳：『[新時代の幕明け UFO からの技術移転](#)』（原澤亮訳、Amazon）

Amazon のこの本の内容紹介文を読むとコルソー元米陸軍中佐の経歴が分かる。

5. ハル・パソフとキット・グリーン Harold(Hal) R. Puthoff and RV program history
遠隔透視プログラム。詳細不明。パソフについては以下の著書がある。

[『Mind-Reach: Scientists Look at Psychic Abilities』 | 感想・レビュー - 読書メーター \(bookmeter.com\)](#)

6. メアリー・エリザベス/エリオット-TRW 事案 Mary Elizabeth Elliot-TRW story
詳細不明。ウィルソンが覚書の中で「今から 30 年後、彼女が今わの際にでも告白すればすべてが明らかになるだろう」と言った「30 年後」がそろそろ来たけれど？誰かこの事案について知っている人はいますか？と問い、それに何人かが応じる知恵袋的なページが見つかったくらい。結局誰も分からない。

[Mary Elizabeth Elliot-TRW story \(Wilson Memo\); Remote Viewer? Details? : r/remotewiewing \(reddit.com\)](#)

7. インゴ Ingo Swann (1933-2013), RV

インゴ・スワンは遠隔透視の先駆けであり、木星のリングが発見される前にその存在を透視したり、月の裏側にある ET の基地を透視したという。

[The Story of Ingo Swann I Ingo's Cocktail Garden I The High Line Hotel](#)

[Ingo Swann - Wikipedia](#)

9. アクセルロッド Axelrod

[Ingo Swann - Wikipedia](#) の Ufology の項目に名前が出ている。

インゴ・スワンと共に UFO が湖の水を吸い上げているのを目撃したという。

“Swann and an individual known as “Mr. Axelrod”---

Along with two “twin” body guards, Swann and **Axelrod** attempt to secretly watch a recurrent **UFO** appear and suck up the water of a lake.”

以上